

静岡納税だより

第146号
編集発行

令和2年2月号
静岡納税貯蓄組合連合会
会長 片山 健

令和元年度

「税に関する作品」入賞者決定

たくさんのご応募ありがとうございました。

応募総数 1,677点 (50校)

租税教育の一環として、当連合会が毎年実施しております「税に関する作品」の募集につきまして、本年度も小・中学生の皆さんから多数のご応募をいただきました。ご協力をいただきました学校並びに関係機関の皆様へ厚くお礼申し上げます。

入賞作品介绍

東海納税貯蓄組合連合会会長賞



静岡大学教育学部附属静岡小学校 6年
見城 菜々子



静岡県納税貯蓄組合連合会優秀賞



静岡市立駒形小学校 6年
澤井 和奏



東海税務連絡協議会会長賞



私は中学三年生の受験生だ。今年の夏は受験に向けていろいろ準備する時期だった。その中で学校の特色を知る為に高等学校一日体験入学に参加した。私立高等学校説明会の中に2020年から始まる『高等学校等就学支援金制度』という説明があった。『就学支援金制度』とは国による授業料の支援の仕組みのことだ。先生方は「皆さんにより良い授業を受けてもらうチャンスが増えるサポートです。」と話していた。『授業料』という言葉にピンとこなかった私に母は「義務教育も終わりだね。」とつぶやいた。改めて義務教育について考えると、毎日あたり前のように通っていた学校を支えてくれたのは、たくさんの人々の所得税・住民税・消費税だった。

一年間で国が使う税金の使い方について調べてみた。歳出総額が101兆4571億円に対し、社会保障関係費に34兆593億円、文教及び科学振興費に5兆6,025億円もの大金が使われていることがわかった。この結果から全体の5パーセントが教育費として活用されている。すべての税金は私達の安心・安全な生活を支えるために使われているものだった。しかし、世の中を見わたすと、税金が足りず老朽化が進んだ道があったり、年金制度問題など最近暗いニュースをよく目にするようになった。その中で、今回高校生になる私達を対象とした事業に税金をあててくれている。他

チャンスの中ではばたけ

静岡市立安東中学校 3年 鶴見 梨菜

に予算を回したい事業はたくさんあるはずだ。それなのになぜ『就学支援金制度』を行うのだろうか。

少子高齢化に伴い働き手も少なくなる中、私達が強く生き抜いていくためには自分自身にスキルを身に付けることが大切だ。AIに負けず個性を活かし生き抜く力をつける為には高等学校の授業でより専門的な知識を学ぶことが必要だ。そのため国から私達へのプレゼント投資なのではないかと思った。

私は今年10月から消費税が10パーセントに引き上げられることに不満を持っていた。物やサービスを利用するたび中学生も払う間接税。これは、おこづかいの中でかなりの痛い出費だ。しかし、今は消費税を払いたくないと思っていた自分がはずかしい。私が出した10パーセントが誰の役に立ち未来の子供たちへのバトンパスにつながると思うと、本当にすてきなことだ。少しの思いやりがたくさんの人々の善意となり何兆円ものお金となり、社会を支えることにつながると知った。

高校ではより専門的な勉強をすることになる。一人でも多くの子供が自分の好きな勉強を選択し個性を発揮できる日本になったら、すてきな未来となるだろう。

また、人間としての良さを見つけ一組でも多くの家族が増えたら、少子化も改善されるかもしれない。私達は国からもらったチャンスの中ではばたけたらよりよい国家作りに貢献できると思う。私も個性を大切に、前向きにはばたいていきたい。